

# パンタナール通信

一般社団法人 南北米福地開発協会 会報 2015年10月1日 145号  
世界平和地球村の建設と自然環境の保護

## 第15回国際協力青年奉仕隊特集



パラグアイ川沿岸、最北端の町バイア・ネグラ市の公立小中高校の生徒、教師たちと共に。（9月1日、お別れの感謝会にて）



塗装後のクリニック。（8月30日 バイア・ネグラ）

奉仕隊は、首都アスンシオンより二日かけ、長くて困難な未舗装路をバスで走り抜け、二十八日にバイア・ネグラ海軍基地に到着しました。ほこりまみれでバスを下りた隊員たちは、司令官と海軍スタッフの大いなる歓迎を受け、軍の宿舎を宿泊先として提供されました。また滞在した五日間、海軍の司厨兵の調理した健康的な食事のおかげで、奉仕活動、文化・スポーツ交流に全力で取り組むことができました。

八月二十九日（土）、学校は休みでしたが、登校した一部の生徒たちと自己紹介、チーム編成をし、中高等学校舎のペンキ塗装のための清掃と、壁の修復、机と椅子の修理と塗装などをしました。

翌三十日、近隣で唯一のクリニックに行き、外壁とベンチを塗装しました。市内のメイン道路からもよく見えるクリニックは見違えるように美しくなり「幽霊屋敷が立派な館に変貌（院長談）」しました。

三十一日は中高等学校の三教室の内壁と外廊下の壁とを、白と茶色にペンキ塗装しました。塗装完了後、フットサル、バレーボール、折り紙教室などで、多くの生徒たちと心の交流をしました。その後、奉仕隊員と先生、生徒が力を合わせ、校庭に穴を掘つてニーム苗を植樹しました。成長が樂しみです。（二面に続く）

彼らの喜々とした姿、熱心で丁寧な作業を通じ、校長を始めとする教師、宿泊先の海軍司令官と軍関係者、病院長とスタッフ、住民たちの間に大きな関心を呼び、「この町の人々はあなた方を平和の天使だと言っています」という言葉を受けました。今回もまた奉仕隊への篤いご支援をお寄せくださいの方々に、改めて深く感謝いたします。

第十五回国際協力青年奉仕隊は、予定通り八月二十五日に羽田空港より出発し、パラグアイ共和国、チャコ地方の学校や病院などにおいて奉仕活動をなし、九月十日に全員元気よく帰国しました。隊員たちはいつも笑顔を持ち続け、現地の青少年とすぐに打ち解け、ペンキ塗り、スポーツ・文化交流、植樹活動に仲良く汗を流しました。

あなた方は、私たちの町に来た平和の天使です！



クリニック塗装、いざ出陣！



クリニック外壁は2色で塗装。あと一塗りで作業完了！



バイア・ネグラめざして疾走



ベンチは木部も当会が新調



机と椅子を美しく塗装した。



海軍司令官より謝辞と激励

第15回国際協力青年奉仕隊  
一般社団法人 南北米福地開発協会  
SOUTH & NORTH AMERICA SUSTAINABLE DEVELOPMENT FOR WORLD PEACE  
2015年8月25日～9月10日 於 パンタナール地域

ほら、ハートとハート！



かわいいTシャツもらった！



レダ開拓の歴史が凝縮する公館。内外の美しさにも感動！



パクーの追い込みを手伝う。



動物好きは必見の豚ランド



トゲの木を抜く開拓体験



包丁で魚の内臓を除去する。

大きいパクーを選び分ける。

(一面より続く) また、在大阪市のNPO法人、日本救援衣料センターから預かった衣料品を、バイア・ネグラ小学校・中高等学校の各校長と、先住民の村ディアアナ小学校の校長を通し、それぞれの生徒たちに届けました。

九月一日の朝、お別れの感謝会では、校長と海軍司令官、および奉仕隊員が相互に相手への感謝の言葉を述べました。そして可愛らしいパラグアイのダンスに続き、奉仕隊が得意の歌と一緒にダンスを披露。最後は全員で踊り、抱き合い、別れ難い思いで、レダ基地に向かいました。

レダ基地に到着した一行は、日本と同様の水道水でシャワーを浴び、汚れた衣類の洗濯をしました。元気のよい隊員は早速スイミングプールに飛び込んで、水泳も楽しみました。

二日は、レダにおけるパンタナールプロジェクトの過去、現在、未来について佐野氏より説明を受け、農業、養殖、牧畜ほか、各プロジェクトの現場を巡つて見学しました。折りしもパクーの大群注文が入ったため、午後一番で養殖池に入り、パクーの追い込みと収穫、および内臓の除去と洗浄の手伝いもしました。

三日は、開拓体験。斧と鉈を持って藪を開き、大きく鋭いトゲだらけの木々を刈り、整地にする作業です。酷暑の中、筋肉をフル活動員し、先人たちの血の滲む努力を象徴的に体験しました。その後、タロイモ水田で、タロイモを収穫、皮を剥いてきれいに洗い、収納しました。

四日は釣り体験。ボートに分乗し、たくさんアキダバンに乗り、岸辺で見送るレダ基地での四日間未来を考える時間となりました。夕方には貨客船アキダバンに乗り、岸辺で見送るレダ基地での四日間スタッフにいつまでも手を振りながら、二百Kmのエミへと向かいました。(次面に続く)

五日正午、バジエミ港に到着。チャーターレンタカーでマイクロバスに乗つて、コンセプション経由、夜遅く首都アスンシオンに到着しました。

六日はパラグアイの教会を訪れ、日曜礼拝に参列。中庭でお昼を頂き、信徒家族と奉仕隊の交流会で、軽快なダンスや特技を披露しました。七日は、日帰りで世界遺産イグアスの滝を見学。隣接する鳥の公園と併せ、天地創造の莊厳と優美の世界に目を見張りました。この日はバスに15時間乗る、やや強行の旅でした。

八日、まず全国紙を発行するABC新聞社を表敬訪問。記者の質問に的確かつ感動的に答える隊員たちの顔が印象的でした。その後アスンシオンの中心部まで歩いてショッピング。制限時間まで家族や知人たちにお土産を買いました。そして、アスンシオン空港へ。各自、万感の思いを胸に、機上の人となりました。（小田記）

## 奉仕隊員の感想文より

●今回、国際協力青年奉仕隊に参加して、自分と向き合う時間を多く持つことができました。また、たくさんの自然に触れました。レダでは先輩方と交流することができました。自然を通して、様々な刺激を多く受けました。日本では見ることができないものを見ることができました。（25歳・女）

（25歳・女）



タロイモの水田で収穫体験



パラグアイ川のパクーが釣れた！



白馬にまたがり、手綱捌きも颯爽と



また来る明日の晴天を約束しつつ

仲で、深く感じたことがあります。みんなの感想にもあつたように、私もバイア・ネグラに奉仕に行つたのに、逆に私たちが愛をいただいているんだと感じました。そして、その愛に満たされた自分の達成感、そして何より与えてくれる愛

●生き、第一次、第二次産業を発展させることはできないからです。だから水の問題を何とかしなければならないと思いました。（24歳・男）

（24歳・男）

●バイア・ネグラでの歩みで、「愛」について深く感じたことがあります。みんなの感想にもあつたように、私もバイア・ネグラに奉仕に行つたのに、逆に私たちが愛をいただいているんだと感じました。そして、その愛に満たされた自分の達成感、そして何より与えてくれる愛

●生き、第一次、第二次産業を発展させることはできないからです。だから水の問題を何とかしなければならないと思いました。（24歳・男）

（24歳・男）

●生き、第一次、第二次産業を発展させることはできないからです。だから水の問題を何とかしなければならないと思いました。（24歳・男）

（24歳・男）

●生き、第一次、第二次産業を発展させることはできないからです。だから水の問題を何とかしなければならないと思いました。（24歳・男）

（24歳・男）

●私はパラグアイに来て、平和の世界をつくるものを三つほど感じました。一つ目は自然と共に生きる平和です。はじめ、景色はきれいに見えても虫などに葛藤することもありました。しかし嫌いな虫も会話をして行けば心が穏かになります。（23歳・女）

（23歳・女）

●私はパラグアイに来て、平和の世界をつくる

●私はパラグアイに来て、平和の世界をつくるものがリラックスして、広々とした自然是人を穏かにする感じました。（四面に続く）

に満たされました。それは日本では感じられない愛でした。バイア・ネグラではすべての人が私たちに感謝したり、笑顔で交流してくれたり、すれ違ったときに挨拶してくれました。私は、「神様、なんてすばらしい世界があるのでしょうか！」と感動してしまいました。（21歳・男）●次に、自然を通して感じたことは、壮大な自然の中にいると、その大きさに圧倒されて、レダやイグアスの自然の中にはとても大きくて、どちらにいると、人間はとても大きくて、自然から学ぶことはたくさんあるなと思いましたが、まだ不足している点もあるように感じます。そういつたところを補つてより成長を感じました。（21歳・女）●様々な活動を通して南米の人々の温かさや明るさに触れて、もつといたいと思つたし、日本に帰国することが寂しく思えました。このパンタナールの地は昔に比べると発達したのだと思いますが、まだ不足している点もあるように感じます。そういつたところを補つてより成長を感じました。（21歳・女）●レダではしつかりとした浄水システムがありましたが、しかしパラグアイの首都であるアスンシオンですらまともにそのようなインフラ整備がありませんでした。しかしパラグアイの村から、自然は簡単に共存できないんだなと思いました。それでも自然から学ぶことはたくさんあるなと思いましたが、まだ不足している点もあるように感じます。そういつたところを補つてより成長を感じました。（21歳・女）●この二週間、「平和とは？」を深く考える期間となつたように思います。物質の豊かさだけが幸せや平和ではなく、でも心の豊かさだけが幸せや平和でもなく、その二つがバランスよく中和することが平和に結びつくのではないかとと思いました。私たちは「平和」を言葉で語るだけではなく、一人ひとりが平和な世界を築くためにはやはり自分の専門分野で活躍し、お互いを尊重しあう心が大切だと感じました。また、現地に行き、現場を知るということも大切だと思いました。（23歳・女）●私はパラグアイに来て、平和の世界をつくるものを感じました。一つ目は自然と共に生きる平和です。はじめ、景色はきれいに見えても虫などに葛藤することもありました。しかし嫌いな虫も会話をして行けば心が穏かになります。（23歳・女）●私はパラグアイに来て、平和の世界をつくるものを三つほど感じました。一つ目は自然と共に生きる平和です。はじめ、景色はきれいに見えても虫などに葛藤することもありました。しかし嫌いな虫も会話をして行けば心が穏かになります。（23歳・女）●私はパラグアイに来て、平和の世界をつくるものがリラックスして、広々とした自然是人を穏かにする感じました。（四面に続く）

